

サレジオ同窓会 アジア・オセアニア地域

2021年 近況報告

韓国

・サレジオ中等・高等学校、ドン・ボスコ・ユースセンター（職業訓練校）、サレジオ・ユースセンター（福祉施設）の各同窓会。

・会長はサレジオ高校4回生、李ミョンジェ氏。

・ドン・ボスコの予防教育法によって誠実な社会人、良いキリスト者となるよう育てられた同窓生は、政治、経済、教育、社会福祉などさまざまな分野でドン・ボスコの子として貢献。

多くの同窓生が母校、巣立ったセンターのため活動している：

サレジオ中等・高等学校の奨学金プロジェクト、資金集め。1956年の創立以来、約33,000人の卒業生、その中から7名のサレジオ会員、49名の教区司祭、母校で働く18名の教員を輩出。去年はパンデミックのため開催できなかったが、恒例の最大行事、卒業生が集まる「友だち大集会」が毎年行われている。

ドン・ボスコ・ユースセンターの卒業生は技術教育をサポート。特にサレジオ会員が働く宣教地の学校で。経済支援、機器の提供、生徒に教えるための現地訪問。卒業生が企画する毎年恒例の祭り、去年は中止された。

サレジオ・ユースセンターの卒業生は、資金集め、生徒たちとの交流を通して社会経験を分かち合うことによってセンターで行われる毎年恒例の祭りを支援。去年、祭りは中止された。

・韓国の3つの同窓会の連合は、近い将来、協働することによってドン・ボスコの夢を実現させたいと計画を立てている。サレジアン・シスターズ、イエスのカリタス会の教育機関の卒業生にも呼びかけたい。さらに、ドン・ボスコの予防教育法を体験したすべての人と夢を分かち合いたい。

ベトナム

スライド

1. 大会に参加されている各同窓会会長、顧問、代表者の皆様、ベトナムのサレジオ同窓会連合を代表し、私たちの近況、組織をご紹介します。
2. 課題
 - ・法的地位
 - ・同窓生の世代間ギャップ
 - ・異なる多様な考え方
 - ・パンデミックの中での活動
3. 組織としての法的地位
 - ・会員 200 名、10 のグループ
 - ・独立した組織になれない
 - ・宗教団体、すなわちベトナム・サレジオ修道会の一部
 - ・しかし同窓生の皆がカトリックではない。
4. 世代間のギャップ
 - ・年長の世代と新しい世代の間に 20 歳の差。
 - ・新旧の世代双方の努力が必要、特に年長の世代。最近、新しいサレジオの教育センターと一緒に訪問し交流する企画を行った。
5. 異なる多様な考え方
 - ・世代間ギャップから来るもの。同窓生の関わり度の4つのタイプ、カトリックとカトリックではない同窓生。
6. パンデミックの中での活動
 - ・ほぼすべての会合、集いが中止に。
 - ・オンラインで会合を行うようになったが、多くの人にとって困難がある。
 - ・それぞれのグループの地元での活動を促進。

東ティモール

ヤシント・デオリベイラ 2 世 GEX 副会長

大会に参加する皆さんにごあいさつ申し上げます。

1. 近況・現状

- ・東ティモールの同窓会の今のモットーは、「わが家へ帰ろう」。同窓生とつながり、ド

ン・ボスコの家に戻ってもらい、若者を支援するための協力を強化するため。

・東ティモールの国民の約 25%がドン・ボスコの友、同窓会に登録されていないとしても同窓生。

組織：

- ・東ティモール同窓会連合
- ・12 の同窓会
- ・新たな同窓会も発足予定
- ・サレジオ会の学校、同窓生が設立した学校などが 9 つのグループを形成

GEX のプログラムと実践

- ・2018 年に発足、3 人の責任者。
- ・現在、オラトリオの活気づけ、サレジオ青年運動 SYM と一緒になり活動している。
- ・2018 年、高校生、大学生のための 2 つの養成プログラム
- ・若いアニメーターによるオラトリオのリード、行事の企画を助け、リーダーシップ、マネジメントの力を育て、発揮できるようにしている。

写真：2018 年 1 月、ディリで GEX によって行われた若者の研修「グローバル化時代におけるメディア・コミュニケーションの若者への影響」

パンデミックのなかで

- ・同窓生の間でコロナウィルスによる大きな犠牲が出ていないことに感謝。
- ・同窓生個人、同窓会、同窓会グループは、ディリ周辺や各地の貧しい地区で人々への物的・精神的支援（家の建設、生活必需品の配布）、ファトゥマカ高校への経済的支援を行った。
- ・WHO が推奨する感染予防策の周知を促進。ソーシャル・ディスタンス、手洗い、マスク、不要不急の外出自粛など。